



キュウトビ

vol.17
2019

学校法人九州国際大学
学園広報誌

A+


学生・生徒がつける

九国の 通信簿

◎キュウヒト探訪 [九州国際大学 学長 西川 京子]


◎キャンパスレポート ◎アスリートたちの夏 ◎人生の扉 第8話:バーベル

◎学校法人九州国際大学 平成30年度決算報告



学生・生徒がつける 九国の 通信簿

「九国」では、学生一人ひとりと本気で向き合うという建学からの塾的精神を礎に、刻々と変化し続ける社会を生き抜く力を身につけさせるために、さまざまな教育改革に取り組んでいます。大学では、地域貢献活動や短期留学の義務化など、独自の実践教育を徹底。グローバルな視点を持ちつつ、ローカルな立場で活躍できる人材育成に力を注いでおり、附属高校・中学校では、情報コミュニケーション力の向上をめざし、九州でも最高水準のICT次世代型教育環境の整備などを進めています。では、実際に学んでいる学生や生徒たちにとって、「九国」の教育力はどのように映り、どう評価されているのでしょうか？ 3人の学生、生徒さんに先生や授業のこと、ここで学んだことや将来の夢や目標など、リアルな声を聞いて「九国」の通信簿をつけてもらいました。



勉強はもちろん、ボランティア活動、ダンス部、留学、アルバイトとアクティブで多忙な学生生活を過ごしてきた青柳さん。現在は外資系企業のインターンシップの一環として、学内でのマーケティング活動に取り組んでいます。



University

九州国際大学
法学部法律学科4年生
青柳 雄也さん
(福岡県 八幡中央高等学校出身)

難関クラスに在籍し、ウエイトリフティング部でも活躍する司農さんの将来の夢は、病に苦しむ患者さんの心を、少しでも和ませることができる「面白い医師」。勉強はもちろん、トークスキルも磨きたいと笑顔で語ってくれました。



High School

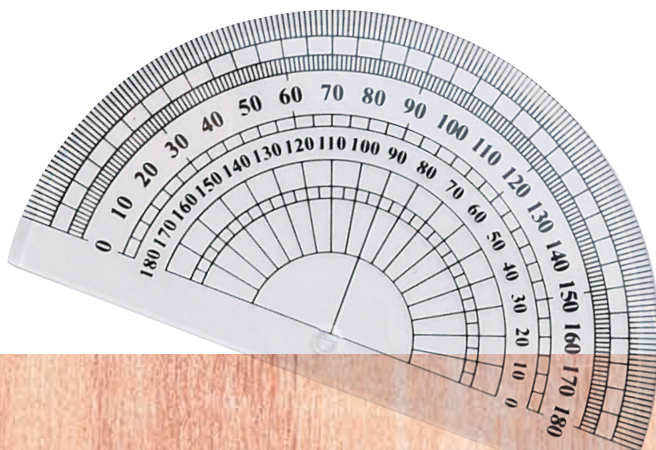
九州国際大学
付属高校2年生
司農 啓人さん
(九州国際大学付属中学校出身)

学んだことがどんどんつながり、広がっていくから、勉強って本当に面白いと話す原さん。将来は、研究者になるのが夢とか。新しいことに挑戦することも大好きで、10月に行われるオーストラリア体験教室を心待ちにしています。



Junior High School

九州国際大学
付属中学校3年生
原 彩乃さん



「もっと広い世界を見たい」。 学びの意識が変わりました。

法学部法律学科4年生
青柳 雄也さん

警察官になりたくて九国大に入学しました。ところが、授業やゼミ、サークル活動を通して同級生や先輩、先生方と、いろんな人と接するうちに学びの意識が変わりました。もっと広い世界を見たい、体験したいと1年生の秋からキャリアアコースへ。地域経済学科の学生が企画開発したキウイカレーの販売業務に携わりました。売り上げの管理や利益率の計算、販売ルートの確保まですべて自分たちで行わなければならず、課題は山積。しかし、大局を見据えながらも細部に目を配り、多様な人たちと協働していくという組織運営に欠かせない力を身につけることができました。私は現在、外資系企業のインターンシップに参加していますが、その業務に関連する学内でのマーケティング活動についても大学に快諾していただき、全面的に協力していただいています。20000人の学生の中の一つの一人の活動に対しても全学を挙げて応援してくれる大学は、そうそうないと思います。ゆくゆくは、ここで培った実践力をベースに実社会でキャリアを磨き、起業するのが夢です。



University

コース改編

2020年から法律学科は
確実にステップアップして
いける2コース編成に

法学部法律学科では2020年度より、公務員をめざすリスクマネジメントコースと、民間企業への就職を目標に学ぶキャリアコースの2コースに改編しました。公務員、民間を問わず、採用、就職の際に有利になるのが資格やスキルの取得です。そこで、本学科では、いずれのコースに在籍していても資格取得にチャレンジできるよう、基礎からしっかりサポートする体制を整えました。たとえば、1年生で法学検定、2年生で宅建の資格というように、段階的なプログラムにより確実にステップアップしていけるよう配慮しています。指導を受け持つのは、法律の専門家や有資格者のほか、現場を知り尽くした実務経験者などのスペシャリストたち。彼らの確かなノウハウと豊富な経験が、難関資格の扉を開き、社会で活躍できるスキルを習得する、力強いあと押しとなります。



就職支援

全員連絡&個別面談を
モットーに、1年次から
就職支援がスタート！

世の中には400万を超える企業が存在しています。しかし、ほとんどの学生は十分な企業情報を持たないまま就職活動を始めてしまいます。「就活」の第一歩はそうした現状に「気づく」こと。そして、自分と向き合い、自分を「知る」ことにあります。九国大の就職支援は「キャリアデザイン」という1年次からの必修科目で、自己分析を行うことから始まります。キャリア支援室のモットーは「全員連絡&個別指導」。学生一人ひとりと時間をかけながら個別指導を進め、SNSも積極的に活用して、学生全員とリアルタイムな情報交換を行っています。就職活動で多くの時間を要する企業選択やエントリーシート、履歴書の作成、面接練習にいたるまで丁寧なサポート。コンパクトで学生との距離が近い九国大だからできる、きめ細やかな支援体制。みなさんと共に考え、支えながら、将来への道をバックアップしていきます。



実践教育

車いすユーザーのための
海外旅行企画「ペガサス・ボヤージュ」

観光ビジネスコース福島ゼミでは「障がい者の楽しみをつくる」をコンセプトに、障がい者がプロに弟子入りする仕事体験企画「オ！シゴト・バリ体験」をはじめ、車いすの新郎のための婚礼衣装（実用新案取得済）の開発や、健常の花嫁と同じ目線になれる昇降式電動車いす「ペガサス」の製作などに取り組んできました。2018年には車いすユーザーと一緒に海外を旅する「車いす学生に翼の旅を届けたい。～ペガサス・ボヤージュ～」を企画立案し、一般社団法人日本旅行業協会主催の「海外卒業旅行企画コンテスト」でグランプリを獲得。また、これらの継続的取り組みが評価され朝日新聞社主催の「大学SDGs ACTION! AWARDS2019」ではスタディーツアー賞を受賞し、学内でも平成30年度学長賞をいただきました。また、2019年3月には西鉄旅行北九州支店様と共同で「ペガサス・ボヤージュ～オーストラリアシドニー 4泊7日～」のモニターツアーを実施。SNSで募集した車いすユーザーの矢野剛教さん(31歳)とゼミ生4人でシドニーへ。旅行費用はクラウドファンディングで調達し、帰国後は社会起業大学・九州校(北九州市)にて報告会を行うなど実践的な社会活動を続けています。



青柳さんの評価は

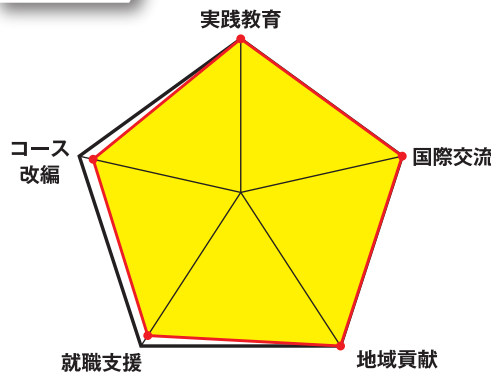
座学以外に大切なことを学べた
九国大は、私にとって、ほぼ満点。
学生がやりたいことを本気でア
ピールすれば、全学でサポートし
てくれる大学です。



国際交流

英語圏にも広がる留学。
語学力だけでなく、
国際人のマインドも育む

本年度、本学カリキュラムとしての海外実習(3週間:7カ国)に111名(昨年度68名)の学生が参加します。また、交換留学・単位認定留学などで半期以上留学中、もしくは留学予定の学生は35名におよび、昨年度の18名から倍増しました。渡航先も、アメリカ、イギリス、韓国、フィリピン、中国、台湾、カナダ、アイルランド、ニュージーランド、オーストラリアの10の国と地域に広がっています。近年は語学の習得のみならず、現地の大学の専門講義やボランティア活動、スポーツ・文化活動への参加を志向する学生が増える傾向にあります。今後も学生たちの世界でのアクティブな学びを、積極的に支援、展開してまいります。



地域貢献

YAHATA を世界へ発信！
学生ボランティアが多言語で観光案内

野村政修地域連携センター長、福西和幸国際センター長が中心になって進めてきた、学生観光ボランティアYahata Backyard Student Supporters <YBS>の活動が、いよいよ今年から始まりました。これは、九国大生が北九州市を訪れる外国人観光客の観光案内を行う取り組みで、ゴールデンウィークは八幡の河内藤園で、また7月19～21日にかけては小倉祇園太鼓の見物客で賑わう小倉城周辺で活動を行いました。揃いの黄色いユニフォームを着用した40名の学生たちが、得意の英語、中国語、韓国語で観光案内を実施。外国人観光客からは、「丁寧な説明で、八幡が好きになりました」と好評で、小倉祇園太鼓保存振興会の方からも、「外国人の方々への対応がスムーズに行えて助かりました。来年もぜひ協力をお願いします」と喜んでいただきました。参加した学生たちも「はじめは緊張したが、積極的に話しかけるうちに笑顔で案内できるようになった」、「とまどうこともあったが、楽しかった。また参加したい」などの感想が、語学力だけでなく、対人力を磨くいい機会にもなったようです。今後も行政や地域の方々と連携しながら、<YBS>の活動を続けていく予定です。



みんなと夢中になって取り組むことは、 最高に楽しい。カッコいい。

付属高校 2年生
司農 啓人さん

1年の時に、パソコンから出る熱を利用して車を走らせたり、お湯を沸かしたりして、その記録を競うエンジニアリングの競技会に参加しました。最初は軽い気持ちで手を挙げたものの、いざ挑戦してみると結構大変でした。半年以上にわたり、答えがない問題に向きあうことの難しさ、苦しさ。勉強や部活とも両立させなければならず、心が折れそうになったこともありましたが、メンバーと情報共有しながら、実験と討議をくり返し、プレゼンでも面白トークで猛アピール。その結果、プレゼンテーション賞を受賞することができました。以前の僕は、何かに熱くなるなんてカッコ悪いと、どこか冷めたところがありました。しかし、今は違います。みんなと一緒にワイワイやりながら、ひとつのことに夢中になって取り組むことは最高に楽しいし、カッコいい。自分の意見を主張するだけでなく、人の話を聞くことの大切さにも気づかされました。ここは、ただ机に向かって勉強するだけでなく、能動的に挑戦することで成長できる機会をたくさん与えてくれる高校です。

$$\omega = \frac{\theta}{t} \quad (\text{角速度} [\text{rad/s}])$$

High School

教育環境

ICTの本格導入により
2in1タブレットが
生徒全員、必携に

本校では、ICT教育を軸とした次世代型教育を推進しています。すべての普通教室へのインタラクティブプロジェクター設置、校舎全館Wi-Fi完備など、九州圏内でも最高水準の環境整備を進めています。しかし、パソコン端末の台数には限りがあり、2つの情報教室(パソコン端末室)やICTルームなどには設置されているものの利用時間の制約もあり、生徒一人ひとりにとって十分な学習環境とはいええない現状があります。そこで、2019年度の入学生から、2in1タブレットの必携化を決定しました。学校生活での活用はもちろん、授業でもプレゼンテーション資料の作成や演習問題の配信などに利用し、新しい大学入試システムにも対応。また、すべての生徒がClassi(BenesseとSoftBankとの共同設立会社による教育支援ソフト)を活用することで、教員生徒間のコミュニケーションや学習管理に役立てます。保護者さまにとっても、お子さまの定期考査や全国模試の成績を確認できるというメリットがあります。



受験対策

2020年、大学入試が
大きく変わる！
新テストの傾向と対策

2020年から新しく導入される「大学入学共通テスト」。すべての教科で思考力・判断力・表現力を重視した問題が出題されます。国語と数学は、マークシート式問題に加えて、記述問題が導入される予定です。そのため、国語では言葉が意味する内容や文章中における意味をしっかりと考えることに重きを置き、3年次では小論文指導に力を入れていきます。また数学は、初見問題に対しても、まずは自分で試行錯誤を重ねていくことで、自分で考えること、別解を考えること、表現力を磨くことを重視しながら課題に取り組みます。さらに英語は、英語成績提供システムを活用し、読む・聞くに加えて書く・話す能力も測定されます。単語、文法、読解等の基本知識を習得したうえで、そこから先の熟考や表現力を高める実践的な学びで、自分の意見や考えを英語で発信できる力を育みます。



社会貢献

持続可能な社会をめざし、
環境科学部らの生徒がエンジニアリングに挑戦！

2015年12月のパリ協定で、日本は2030年までに温室効果ガスの26%減(2013年度比)を目標として宣言しました。2018年8月、本校の有志の生徒たちは、日鉄エンジニアリングと協リバネスと連携。身の回りの廃熱を熱源として効率的に活用するためのエンジニアリングに挑戦するプログラムに参加しました。参加者は福岡県内の高校を中心とする7チーム。課せられたMissionは、工場に見立てたパソコンが稼働する時に生じる廃熱を、パソコンの稼働力を落とすことなく①車の駆動②お湯の生産などに効率的に活用させること。しかし、「答えのない答えをみつける」といったエンジニアリングの厳しさに直面し、何度となく失敗が続き、最初30人近くいたメンバーも最終的に12人になってしまいました。それでも日鉄エンジニアリングや協リバネスの方々からアドバイスをいただきながら開発を進め、2019年3月に行われた最終コンテストで廃熱利用の工夫点やコスト面、アイデアを発表。実証実験では車の走行距離で1位を獲得し、審査の結果、本校はプレゼンテーション賞を受賞しました。この経験は学内ではできない実際のエンジニアの方々や技術の開発を進めていく貴重な体験として、これからの社会に大きく貢献できる礎となることでしょう。



司農さんの評価は

とにかく先生が熱心。生徒の話聞いてくれて、よく声もかけてくれます。教育環境や受験対策も充実しているし、中学・高校とここで学べて、本当に大満足！



クラブ活動

吹奏楽コンクールや演奏会、
学校行事、地域活動にも
積極的に参加

本校の吹奏楽部は、1、2年生 約30名で活動しています。吹奏楽コンクールや定期演奏会を中心に、吹橋祭や体育祭などの学校行事、地域の保育園や祭への地域行事など様々な活動をしています。勉強と部活との両立を目標に、演奏を聴いてくださるお客さんのために十分なパフォーマンスができるよう、日々練習に励んでいます。



教育環境

受験対策

社会貢献

クラブ活動

グローバル教育

TOPICS

グローバル教育

8年間で50人が世界へ。
その中からドイツに留学した生徒を
クローズアップ。

3年8組の木下 優衣さんは2018年8月、ドイツ北部のパートオルデスローという町の語学学校に12カ月間留学しました。留学先あまりポピュラーでない地を選んだのは、ドイツ語に興味があったことと、未だ訪れたことのない場所に身を置いて思いきり挑戦したかったからだそうです。「ホストファミリーがベジタリアンだったので、食事については困惑することが多かったけれど、頑張ってドイツ語をマスターすることができました。しかし、一番の収穫は、留学前は当たり前だった日常の大切さ、ありがたさに気づくことができたこと」と木下さん。ドイツという国だけでなく、自国への理解も深めることができたとか。「将来は観光業に関わる仕事に就きたい。とくにホテルのスタッフとして、外国の方のサポートができる人材になりたい。」と語る木下さんの瞳は、キラキラと輝いていました。留学した経験と語学力が、将来の夢につながる大きな気づきとなったようです。

入学してみると、思っていたより活気がある学校でびっくり。行事やイベントが多く、そのほとんどは生徒が主体的に取り組まなければならないので、自然とクラスの結束力も強くなります。なかでも盛り上がったのが1年の時の音楽祭です。どうしても3年生を超えたい。その一心でクラスのみんなと練習に励み、特別賞をいただいた時は感激しました。授業もわかりやすく面白く、退屈している暇はありません。とくに好きなのが社会科です。教科書に載っていないけれど、先生が話してくださる歴史上の人物やできごとのエピソードが楽しくて。もっと知りたくなり、あとから自分で調べてみることもあります。また、その時にはわからなくても2年、3年になって理解できるようになったこともたくさんあります。もっともっと勉強したい。未だ解説されていないインダス文字を読み解いてみたい。作者不詳の古文の作者を見つけたい。宇宙に飛び出して新たな星を発見したい…。附属中学校での勉強が、世界はワクワクする学びにあふれていることを教えてくれました。

世界は、ワクワクする学びにあふれていることを教えてくれた。

附属中学校 3年生
原 彩乃さん



Junior High School

宿泊研修

3日間の団体行動で 九国生の誇りと自覚が芽生える

今年の7月10日(水)、本校の1年生はグローバルアリーナで3日間の宿泊研修「九国チャレンジ教室」に参加しました。日常とは異なる環境で友達と共に暮らすことにより、チームワークや集団の中で自分を生かしていく力、相手を受け入れる心を養います。1日目の午後はアビスパ福岡の藤井コーチに指導を受けながら、ブラインドサッカーに挑戦。見えない世界に悪戦苦闘しながらも、たくさんを学んだようでした。2日目の午後は集団行動とソフトボール。夜はレクリエーションやゲームで盛り上がりました。そして3日目、集団行動の発表会を行った後、帰途へ。大きなケガや事故もなく無事に終了することができました。帰りのバスでは、みんなすっかりうちとけて、お互いの距離がグンと近くなった様子でした。わずか3日間の共同生活でしたが、九国生としての誇りと自覚が身についたことを感じさせる、有意義な研修となりました。



進路指導

感性豊かな今だからこそ！ 中学生から始まるキャリアガイダンス

中学生の頃から将来について考えることは、学びの目標を定めることにも役立ちます。そこで、本校では、将来への夢をふくらませるために、職業体験教室や大学・高校体験教室を実施しています。今年の7月17日(水)、3年生を対象に行った高校体験教室では、2人の卒業生(現高校生)を本校に招き、中学時代の勉強面や生活面のこと、今の高校生活などについて語ってもらいました。卒業生とは年齢が近いだけに生徒たちは興味津々。受験勉強の仕方やモチベーションの保ち方など、熱心に質問をしていました。7月18日(木)には、2年生が職業体験教室に参加。ハローワーク(八幡公共職業安定所)から講師の先生をお招きし、職業レディネス・テスト※を受けた後、職業についての講話を聴講しました。自分がどのようなことに興味や自信があるのか、それをどのように社会に活かし、還元することができるのか。一人ひとりが真剣に考えているようでした。キャリアガイダンスを通して将来の可能性を模索することは、本校の教育理念「未見の私の発見」にもつながっていきます。

※仕事に対する興味・関心や自信から、自分のパーソナリティを理解するためのアセスメント・ツール(心理検査)



受験対策

家庭学習で自学力を育み、2つの高校入試で学力形成の高みをめざす

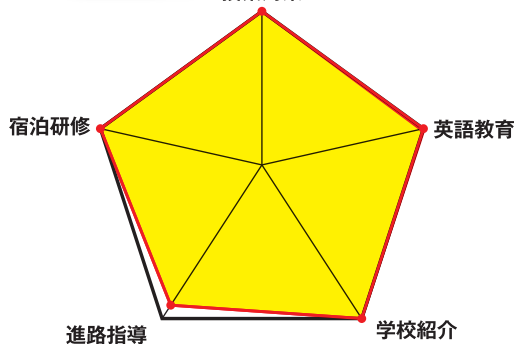
自学力は学力の向上はもちろん、受験対策においても不可欠な力です。本校では自主的・自発的に学びと向き合う力と態度を高めるために、自分の限界を超えるK点突破ノート(KTN)を使って日々の家庭学習に取り組んでいます。英単語の暗記などから始まり、自分の学習レベルに合わせた目標を設定。クリアしていく過程を通して自学力を鍛えます。長期休暇や学年末では、受験に向けたK点突破学習会(KTG)で、自学力をさらに磨いていきます。生徒たちの将来を考えると、人生を支える基礎となる力は中学生の時にしっかり身につけておくことが大切です。本校では、高校入試も学力を形成する絶好の機会ととらえ、付属高校入試で知識・技能、公立高校入試で思考力・判断力を育てるようにしています。そのため、進路希望とは関係なく、2つの高校入試を受験することを基本的に学習指導を進めています。



原さんの評価は

授業の面白さ、わかりやすさは花丸付き！勉強以外のイベントや行事も充実しているのも、友達との絆も深まります。ぜひ、オープンスクールに来てください！

授業対策



学校紹介

小学3年生から大歓迎！ オープンスクールと学校見学ツアー

本校では九国付属中学校を、よりくわしく知っていただくためにオープンスクールや学校見学ツアーを開催しています。オープンスクールは授業体験が中心で小学3年生から参加できます。今年は6月23日(日)に開かれ、「鏡の中の不思議な世界」や「蹴らないサッカー」、「KYUKOKU ミステリーツアー」など楽しみながら学べる講座が盛りだくさん。多くの小学生たちが目を輝かせながら受講していました。7月27日(土)に実施された夏の学校見学ツアーでは、300名を超える過去最大の見学者が来校。1つの会場では対応できず、急きょ会場を増設して説明会と授業見学ツアーを行いました。いずれも入学後の学校生活がリアルにイメージできると好評で、とくに保護者の方々からは先生の熱心な指導力と授業の質の高さが支持されており、それが受験者数の増加にもつながっています。



英語教育

英語の4技能を磨く。 第24回EPC本選大会を ウォッチング！

本校では英語の4技能の調和的発達をめざし、1年生と2年生のすべての生徒がEPC(English Presentation Contest)に取り組みます。今年は3月5日(火)、九州国際大学KIUホールにて第24回EPC本選大会が開催され、クラス予選を勝ち抜いた代表者が発表に臨みました。1年生の課題は物語の暗唱で、「The Rabbit and the Tortoise(うさぎとかめ)」、「The Wind and Sun(北風と太陽)」など4つの課題文から1つを選び、セリフの言い方や身振り手振りを工夫しながら生き生きと表現していました。2年生の課題はスキット。4人グループで劇を演じます。演目は「A Magic box(マジックボックス)」と「Momotaro, the Peach Boy(桃太郎)」。学年末考査後から練習を重ねてきただけあって、セリフのタイミングや動きも息がぴったり。見るからに楽しそうに演じていました。司会も生徒が英語で行い、すべての生徒が緊張しながらも堂々と発表することができました。



キユウヒト探訪

Interview

VOL
1

地域や母国に誇りを持ち、
世界視野を広げていく。
その知見を高めるのが大学です。

九州国際大学 学長 西川京子





知見を高め、成長の糧となる留学。英語圏の大学との協定を強化

私が学長に就任した数か月後、現代ビジネス学部が開設されましたが、それ以降、定員を上回る入学志願者が集まり、順調なすべり出しを続けています。なかでも学生のポテンシャルを引き出すのに成果を上げているのが、充実した留学制度です。国際社会学科では短期留学が必須。全員が3週間の海外語学実習を体験します。プログラムの担当教員が直接現地に向き、それぞれの学生に合ったカリキュラムを受け入れ先の大学と一緒につくるというキメ細かな内容が特徴で、英語が苦手な学生でも5分くらいのプレゼンならできるようになって帰ってきます。高校での進学説明会でも、帰国した学生が英語で堂々とスピーチを披露して、受験生や進路指導の先生に感心されることもしばしばあります。これまでの留学協定、交流先は、中国、台湾、韓国など東アジアの大学が中心でしたが、今後ますます英語が不可欠になる時代に合わせ、近年は英語圏の大学との協定を強化しています。アメリカ、カナダ、イギリス、フィリピンの大学と新たに提携し、さらなる留学促進に向けた基盤強化を積極的に進めているところです。

地域連携活動を通して、地域の課題を自分ごとにする意識を育む

一方で、地域に根ざした実践教育という建学以来の精神を受け継ぎ、地域住民や行政、企業と協働しながら続けているのが、地域連携活動です。2017年から活動を続けている「地域防災リーダー育成プロジェクト」では、メンバーが防災士の資格を取得。高齢者向け防災啓発やマシオン自主防災組織の結成サポート、シンポジウムの開催などの継続的な取り組みで、2018年度の福岡県防災賞を受賞しました。このほかにも商工会議所と連携した地域安全マップづくり、地元商店街の活性化を図るためのイベント企画や運営、地元小学生を対象にしたサッカーやランドゴルフ教室など、いずれの活動も継続的かつ実践的で、多方面にわたっています。世代を超え、地域住民の方々と深く交流することでコミュニケーション力が育まれ、地域の課題を自分ごととしてとらえることができる意識も芽生えてきます。頑張れば自分にもできる、可能性は自分の足元に広がっている、ということに気がついた学生は、本当に強い。驚くほどのスピードでグングン成長していきます。本学には、そういった伸びしろの大きい学生が大勢いると感じています。

北九州の優良企業とつながり、地域に根づくグローバル人材を輩出

本学は文系大学なので、警察、消防といった公務員や一般企業に就職する学生が少なくありません。しかし、大学の所在地である北九州はモノづくりが盛んな製造業のまちです。そこで、学生たちに北九州を拠点にグローバルで活躍する製造業を知ってもらい、彼らの受験先企業が増えるきっかけになればと、昨年からはモノづくり企業の見学ツアーを実施しています。その甲斐もあり、これまで理系の人材に特化して新卒採用していた地域のグローバル企業から、初の文系出身の新卒社員として本学の学生が4人採用されました。入社した学生たちがキャリアを積み重ね、やがて世界に羽ばたいていくことを期待しています。本学の教育理念は、グローバルな視点を持ちつつ、ローカルな立場で行動できる人材を育成することにあります。本学で国際感覚とコミュニケーション力を磨き、大きく成長した学生が活躍できる場は、今後さらに広がっていくことでしょう。ただし、グローバルで大切なことは、根っこを大事にすること。地域や母国に誇りをもつて世界視野を広げていってほしい。その知見を高めるためのサポートが、すべてここにあります。

2017年、新たに現代ビジネス学部が開設され、今年で3年目を迎える九州国際大学。地域に軸足を置きながらもグローバルに活躍できる人材育成をめざす取り組みは、高校や保護者の方々から高く評価されています。来年、建学90周年を迎える本学の西川学長に、大学の現状と次世代を見据えた教育方針をうかがいました。

Profile

東京都青梅市出身。早稲田大学教育学部卒。結婚を機に熊本県に居住。平成8年9月、自由民主党熊本県連女性部長就任。平成12年6月、衆議院議員選挙で衆院九州比例ブロック当選。平成17年、自由民主党文教制度調査会義務教育特別委員会事務局長に就任。その後、厚生労働大臣政務官、同副大臣、文部科学省副大臣を経て、平成28年10月、九州国際大学学長に就任。
一男一女の母。趣味は油絵、読書、茶道、旅行。

ビブリオバトルの英語バージョン 6名が流暢な英語で挑戦！

2019年7月31日(水)、現代ビジネス学部 国際社会学科英語コースの学生によるビブリオバトルが開催されました。英語コースの3つのゼミが合同で取り組み、春学期を通して全員が英語による発表練習をしてきました。昨年度の日本語によるプレゼン大会の経験が生かされたのでしょうか。今年はさらに力が入っていたように思われます。当日は各ゼミより代表2名が選出され、6名が流暢な英語でプレゼンを競いました。ベストプレゼンテーションに輝いたのは、山田葉名さんによるThe Elephant That Makes Dreams Come True (『夢をかなえるゾウ』)であり、原稿を全く見ることなく、笑顔で観客に語りかける自然な英語がとても印象的でした。準優勝はPAN JIAHUIさんによるThe Great Gatsbyでした。彼女の英語はとても流暢で、説明内容も充実しており、日頃から英語に慣れ親しんでいることが明らかでした。第3位は花田微さんの発表で、みなさんご存知のFinding Doryについて、楽しく朗らかに聞き取りやすい英語で聴衆を魅了しました。すべての発表者が英語の発音に気をつけるのはもちろんのこと、聞き取りやすい声の大きさとスピード、聴衆へのアイコンタクトやジェスチャー、さらには理解を促すための絵を準備するなど、気配りや工夫に溢れたビブリオバトルであったと振り返ります。ハイレベルなプレゼンが多く、日頃のお互いの学習成果を十分に発揮できる良い機会となりました。当日、代表ではなかった学生にとっても、皆がお互いに良い刺激を受け、これからの励みとなったに違いありません。もっと英語を好きになり、さらに上達できるよう、表現やコミュニケーションのあり方を学び、磨きをかけていきます。

地元黒崎商店街をフィールドに、 地域社会の持続可能性を探る



法学部の花松ゼミでは、今年度から黒崎商店街でのフィールドワークを通して地域社会の持続可能性について研究しています。公務員志望、民間志望を問わず、学生は卒業後に何らかの地域社会と関わらざるを得ません。人口減少や地方消滅が叫ばれるなかで、地域が今どんな問題に直面しているのか、どのような取り組みがされているのか、どんな解決法がありうるのか、自分たちに何ができそうかをリアルな現場経験を通して考えてもらうことを狙いとしています。具体的な活動として、商店街連合会と連携しながら事業者や利用者にインタビュー調査を行ったり、黒崎地区活性化のための行政の取り組みを学ぶため北九州市産業経済局への訪問を行っています。地域の実情や未来について考える機会になると同時に、課題解決力やコミュニケーション力の向上にも繋がっています。また、年度末には学生自らが政策提言をまとめ、関係者向けに発表会を実施する予定です。



High School



九州初上陸。校内にセブンイレブンの自動販売機が登場！

校内に2台の「セブンイレブン自販機」が仲間入りしました。おにぎり、サンドウィッチ、サラダチキンなどお金を入れて、欲しい商品の番号を入力するだけで、いつでも気軽にコンビニと同じ食品などを購入できます。九州の高校では初登場。西日本でも2校目です。ランチメニューの選択肢が広がり、生徒にも職員にも大好評です。



今年の咲橋祭は初の2日間開催！ 全校生徒、全力を挙げておもてなし

6月7日(金)・8日(土)に行われた令和初の咲橋祭は、共学になって初めての2日間開催となりました。恒例のモザイクアートや、クラスおよび文化部等の企画に加えて新たな要素を取り入れ、「ピリギャル※」のモデルとなった小林さやかさんによる記念講演や、1年生の合唱発表会を行いました。約1700名の全校生徒で創り、約2400名のお客さまを迎えた咲橋祭は、まさに今年度のテーマ「frameless」そのもの。保護者や地域のみならずともに、楽しい思い出を生み出すことができました。

※ベストセラーになり、映画化もされた坪田 信貴著の
実話小説「学年ピリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」の略

Junior High School

附属中学校は創立20周年を迎えました。



附属中学校は、九州国際大学附属中学・高等学校一貫部として、平成12年(2000年)4月に開校しました。中高一貫6ヵ年教育のもと、東京大学や大阪大学、九州大学などにも卒業生を出し、さまざまな方面で社会に貢献する優秀な人材を多数輩出しております。

その後、平成20年(2008年)の附属高等学校男子部・女子部・一貫部を統合、共学化する学校組織改革に伴い、平成21年(2009年)からは中学校単体の3ヵ年教育を展開。現在は、各学年3クラス編成の9クラス、283人の生徒が在籍しています。

附属中学校の特徴の一つに、高校自由選択性を取り入れていることがあげられます。卒業生は附属高校はもちろん、地域の公立高校や県外の難関私立高校などへ進学しています。特に近年は、附属高校難関クラスやS特進クラス、小倉高校や東筑高校などの難関校への進学者が増加しています。

創立20周年を迎えた今年、9月の記念式典にあわせ、元陸上競技選手で、現在はマラソン中継リポーターとして活躍しているらっしゃる附属高校男子部卒業生の金哲彦氏をお招きし、「金哲彦さんをお迎えして」と銘打った記念講演会を開催しました。スポーツの奥深さ・面白さを拝聴しながら、成長期にある中学生の心と体の健康について学んだところです。

ようやく二十歳(はたち)を迎えた附属中学校ですが、今後ますます地域のみならず愛され、期待に応えられる学校となるよう、生徒と教職員一同、力を合わせて精進して参ります。

アスリートたちの夏～あの日の笑顔も涙も、私たちは忘れない。～

University

令和元年度 全国大会出場サークル

◎ウエイトリフティング部

第65回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会
第31回全日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会
期日:4月26日～28日 場所:はびきのコロセアム(大阪府)
(男子)
M81kg級 富永聖也(4年) 準優勝
M89kg級 西田裕(2年) 優勝
M109kg級 松本経丸(3年) 優勝
M+109kg級 丸本大翔(4年) 優勝
横山太偉雅(2年) 3位

(女子)
W81kg級 阿部栞(2年) 準優勝
W+87kg級 上ノ瀬彩花(2年) 準優勝

2019世界ジュニア選手権大会
期日:6月1日～8日 場所:フィジー共和国 スヴァ市
M89kg級 西田裕(2年) 9位
M+109kg級 横山太偉雅(2年) 9位

第58回西日本学生ウエイトリフティング選手権大会
第19回西日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会
期日:6月28日～30日 場所:はびきのコロセアム(大阪府)
男子団体優勝 得点176点(3連覇通算15回目の優勝)
女子団体優勝 得点73点(初優勝)
【西日本初のアベック優勝】



◎バドミントン部

第68回 九州学生バドミントン選手権大会
大会期間:6月20日～26日
場所:北九州市立総合体育館
結果(男子)
優勝 男子団体
男子シングルス
3位 尾崎公哉
4位 濱崎駿
男子ダブルス
優勝 中山颯麻、阿久根直輝
準優勝 尾崎公哉、濱崎駿
4位 染川凧、安谷屋千寿
以上、全国大会出場決定
第70回全日本学生バドミントン選手権大会
大会期間:10月11日～17日
場所:神奈川県小田原市、秦野市



◎サッカー部

第1回九州大学サッカー新人戦 優勝
本学サッカー部は、九州各県から15チームが出場した第1回九州大学サッカー新人戦に出場し、8月24日(土)に開催された福岡大学との決勝戦で前半1-1、後半0-0、PK戦5-4で勝利し、初代の優勝大学として12月に開催される「第3回全日本大学サッカー新人戦」に出場することとなりました。
本大会は、大学サッカー連盟登録大学の20歳以下の選手が出場する大会です。
【得点者】高山新(1年) 大分県立情報科学高校出身
【アシスト】山口修平(1年) 九州国際大学付属高校出身



High School

◎バドミントン部

令和元年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会
7月31日(水)～8月5日(月)
シングルス男子 2回戦 吉松基(3年)
1回戦 刈荆昇成(3年)
ダブルス男子 ベスト16 吉松基(3年)・濱原和騎(2年)



◎ウエイトリフティング部

令和元年度全国高等学校総合体育大会
ウエイトリフティング競技大会
沖縄県糸満市 西崎総合体育館
7月30日(火)～8月3日(土)
96kg級出場 三井涼雅(3年)



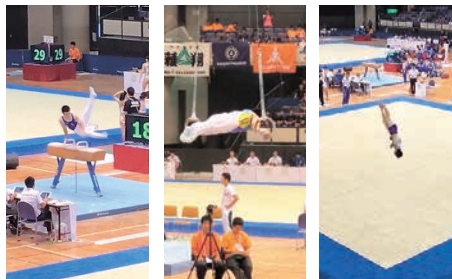
◎サッカー部

2019年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技
福岡県大会
二回戦 九国 2-0 八幡
準々決勝 九国 1-0 希望ヶ丘
準決勝 九国 3-2 飯塚
決勝 九国 0-0 東福岡 (PK 5-6)
準優勝
令和元年度 第71回全九州高等学校総合体育大会
サッカー競技大会
一回戦 九国 3-0 日章学園
二回戦 九国 3-1 熊本学園大付
準決勝 九国 1-0 柳ヶ浦
決勝 九国 1-3 大津
準優勝



◎体操部

令和元年度全国高等学校総合体育大会体操競技大会
7月31日(水)～8月2日(金)
個人決勝出場 本山蒼馬(3年)



◎陸上部

令和元年度 全国高等学校総合体育大会陸上競技大会
3000mSc予選
乗権 田中佑樹(3年)

Junior High School

バドミントン部全国大会出場

全国制覇を目指して、日々の練習に励んできました。男子団体は、市内大会優勝、県大会準優勝、女子団体は、市内大会、県大会ともに優勝し、男女ともに九州大会へと進みました。九州大会では、男子団体は3位、女子団体は準優勝という成績を収め、男女ともに全国大会へと進みました。全国大会では、惜しくも勝ち進むことはできませんでしたが、選手も応援も一丸となって全力で闘いました。個人においても、シングルス・ダブルスともに九州大会に駒を進め、中でも室屋選手は全国大会出場を果たしました。

試合は厳しい場面が多い中、部員同士で声をかけあい一丸となって挑み続け、乗り越えてきました。この経験を活かし、これから精神面・体力面を鍛え上げて、さらにパワーアップし、来年は悲願の「全国制覇」を勝ち取ってくれることを期待しています。

<第48回九州中学校バドミントン競技大会> 8月7・8日

男子団体 3位

山口雄大(3年)、末次晴生(3年)、楠本爽太(3年)、楠本悠人(2年)、坂井大進(1年)、菅剛大(1年)、坂本大地(1年)

女子団体 準優勝

室屋奏乃(3年)、濱口桃子(3年)、栗山陽菜(1年)、本田希藍(1年)、原口樹璃(1年)、東野有咲(1年)、住田菜々子(1年)

女子シングルス

室屋奏乃(3年) 3位

<第49回全国中学校バドミントン大会> 8月19日～22日

男子団体出場・女子団体出場

女子シングルス

室屋奏乃(3年) 出場



本や音楽、恩師など、
人生の転機となった出会いを
教えていただきました。



バーベル

※写真のバーベルは、九州国際大学ウエイトリフティング部からお借りしました。

努力すること。目標を定めること。
ウエイトリフティングが、
人生に必要なことを教えてくれた。

中学までは柔道をやっていましたが、ケガに悩まされ、高校入
学を機にウエイトリフティング部へ。それからわずか3カ月で
全国大会に出場した時は、まだ競技の面白さがよくわからず、フ
ワフワした気持ちでした。しかし、その時に優勝した選手が同い
年だったことから意識が変わりました。私も、もっと上手くなり
たい。以来、大会や合宿で優秀な選手の姿を目の当たりにするた
びに、自分の練習内容や競技に対する姿勢を見直し、体づくりの
トレーニングにも励むようになりました。ケガで思うように練
習ができない時も、ケガが治ってからのことを思い描きながら
メンテナンスに取り組みました。だから、全日本選手権で優勝し
た時は、本当にうれしかったですね。

ウエイトリフティングの醍醐味は、昨日は1キロ、今日は2キ
ロと努力したことが数字でわかり、今まで挙がらなかったバー
ベルを挙げられるようになること。勝負が一瞬で決まる、実にシ
ンプルな競技です。どんなに練習がきつても辞めようと思っ
たことはなく、これまで続けてこられたのは、このわかりやすさ
が魅力だったから。努力は決して裏切らず、目標をしっかりと定め
て挑戦し続ければ、夢は叶う。今までは違う景色が見えてく
る。まさに、ウエイトリフティングが人生に必要なことを教えて
くれました。オリンピックに出場してメダルを獲得する。次なる
夢に向かって、今も数字を更新中です。



九州国際大学職員
ウエイトリフティング部女子監督
オリンピック強化指定選手

柳田 瑞季

福岡県立八幡中央高等学校、九州国際大学経済学部
卒業。九州国際大学ウエイトリフティング部の女子
コーチを経て、現在、同女子監督。

●主な戦績

2017年	全日本選手権大会	48kg級	優勝
2017年	世界選手権大会	48kg級	出場
2018年	カタールカップ大会	49kg級	3位
2019年	全日本選手権大会	49kg級	準優勝
2019年	ブルースワード大会	49kg級	3位

寄附金のお願い

現在、学校法人九州国際大学では、「教育研究用施設設備の拡充」と「教育環境整備」を目的に寄附金の募集を行っております。お寄せいただいた寄附金は、無線LAN環境整備などに順次充当しております。

つきましては、寄附金の趣旨にご賛同いただき、皆様方の温かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(寄附金目標額1億円、令和5年(2023年)3月31日まで)

なお、寄附金募集に関するお問い合わせや手続確認、振込用紙請求等につきましては、下記までご連絡ください。

連絡先

〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目5番1号 学校法人九州国際大学 法人事務局寄附金担当
TEL093-671-8900 FAX093-671-9032 E-mail kifu@kiu.ac.jp
本学HPの寄附金情報 <http://www.kiu.ac.jp/about/kifu/>

学校法人 九州国際大学 平成30年度 決算状況

平成25年4月22日に文部科学省令第15号「学校法人会計基準」が公布され、平成27年4月1日に施行されました（平成27年度決算より適用）。このうち、当該年度の経常的な収支をあらわす計算書は、消費収支計算書から事業活動収支計算書に移行されました。この事業活動収支計算書は、「教育活動収支」、「教育活動外収支」及び臨時的な収支となる「特別収支」の3つの区分で構成され、各区分の収支を明らかにするとともに、当該年度の基本金組入額を控除した収支の均衡を明らかにするものです。

新会計基準に基づく平成30年度事業活動収支決算（旧会計基準の消費収支決算）は、基本金組入前当年度収支差額（旧会計基準の帰属収支差額）が2億723万円の収入超過となりました。また、当年度収支差額（旧会計基準の消費収支差額）は、5億1,933万円の支出超過となっています。

「教育活動収支」における収入は36億8,143万円、支出は35億1,470万円となり、当該区分における教育活動収支差額は、1億6,673万円の収入超過となっています。

「教育活動外収支」における収入は438万円、支出は493万円となり、当該区分における教育活動外収支差額は、55万円の支出超過となっています。

「特別収支」における収入は4,617万円、支出は511万円となり、当該区分における特別収支差額は4,106万円の収入超過となっています。

これらを総じて、事業活動収入は37億3,198万円となり、事業活動支出は35億2,475万円となっています。

なお、平成31年3月末現在の次年度繰越支払資金等（有価証券2億円含む）は25億2,352万円となり、前年度末より2億5,807万円減少しました。「退職給付引当特定資産」は、9億7,389万円で、学校法人会計基準に基づき当期未退職給付引当金計上額の100%を積み立てた金額となっております。「減価償却引当特定資産」は、14億1,443万円となり、前年度末と同様に推移しています。これらをあわせた金融資産残高は、前年度末と比較して2億6,279万円減少しています。

※ 単位万円以下は四捨五入して表記

事業活動収支計算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで) (単位：千円)

経常的な収支のうち、学校法人の本業である教育活動の収支。

経常的な収支のうち、財務活動に伴う収支。

教育活動及び財務活動をあわせた経常的な収支。

特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な収支。

経常収支及び特別収支をあわせた当該年度の収支。
(旧会計基準における帰属収支差額)

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した額

学校法人に帰属する収入
(旧会計基準における帰属収入)

人件費、経費、借入金利息等の支出
(旧会計基準における消費支出)

事業活動収支	科目	予 算			決 算			差 異			
		予 算	決 算	差 異	予 算	決 算	差 異	予 算	決 算	差 異	
● 教育活動収支	収入の活動部	学生生徒等納付金	2,587,778	2,584,270	3,508						
		手数料	73,471	74,008	△ 537						
		寄付金	3,730	6,198	△ 2,468						
		経常費等補助金	872,288	872,288	0						
		付随事業収入	55,906	56,164	△ 258						
		雑収入	88,457	88,502	△ 45						
		教育活動収入計	3,681,630	3,681,430	200						
	支出の活動部	人件費	2,079,782	2,073,661	6,121						
		教育研究経費	1,138,173	1,105,571	32,602						
		管理経費	350,265	334,039	16,226						
	徴収不能額等	1,431	1,431	0							
	教育活動支出計	3,569,651	3,514,702	54,949							
	教育活動収支差額	111,979	166,728	△ 54,749							
● 教育活動外収支	収入の活動部	受取利息・配当金	4,680	4,381	299						
		その他の教育活動外収入	0	0	0						
		教育活動外収入計	4,680	4,381	299						
	支出の活動部	借入金等利息	4,933	4,933	0						
		その他の教育活動外支出	0	0	0						
		教育活動外支出計	4,933	4,933	0						
		教育活動外収支差額	△ 253	△ 552	299						
		経常収支差額	111,726	166,176	△ 54,450						
	● 特別収支	収入の活動部	資産売却差額	0	0	0					
			その他の特別収入	40,617	46,172	△ 5,555					
		特別収入計	40,617	46,172	△ 5,555						
支出の活動部		資産処分差額	4,480	4,480	0						
		その他の特別支出	570	634	△ 64						
		特別支出計	5,050	5,114	△ 64						
		特別収支差額	35,567	41,058	△ 5,491						
		[予備費]	4,089	4,089	0						
		基本金組入前当年度収支差額	143,204	207,234	△ 64,030						
		基本金組入額合計	△ 756,742	△ 726,566	△ 30,176						
	当年度収支差額	△ 613,538	△ 519,332	△ 94,206							
	前年度繰越収支差額	△ 6,057,132	△ 6,057,132	0							
	基本金取崩額	0	0	0							
	翌年度繰越収支差額	△ 6,670,670	△ 6,576,464	△ 94,206							

(参考)

事業活動収入計	3,726,927	3,731,983	△ 5,056
事業活動支出計	3,583,723	3,524,749	58,974

【語句説明】：事業活動収支計算書にのみ表れる主な科目

【事業活動収入】
学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金等収入のうち、負債とならず自己資金となる収入です。よって、借入金や貸付金回収、預り金（他に支払う為に一時的に金銭を受け入れたもの）や前受金（翌年度の活動における前年度入金分）など自己資金ではないものは表示されません。その一方で、現物寄付など資金の受け入れではないものも事業活動収入となります。

【事業活動支出】
人件費、教育研究経費、管理経費等の支出をいい、学校法人の純資産の減少をもたらす支出のことです。そのため、固定資産取得に係る支出や借入金返済、貸付金支出等は事業活動支出とはなりません。引当金の繰入や減価償却などは事業活動支出になります。

【資産売却差額・資産処分差額】
不動産や有価証券などを売却した際の売却額と帳簿価額の差額をいいます。資産を売却した際、売価が資産の帳簿価格を上回った場合、その額を資産売却差額として計上します。資産を売却した際、売価が資産の帳簿価格を下回った場合、その額を資産処分差額として計上します。

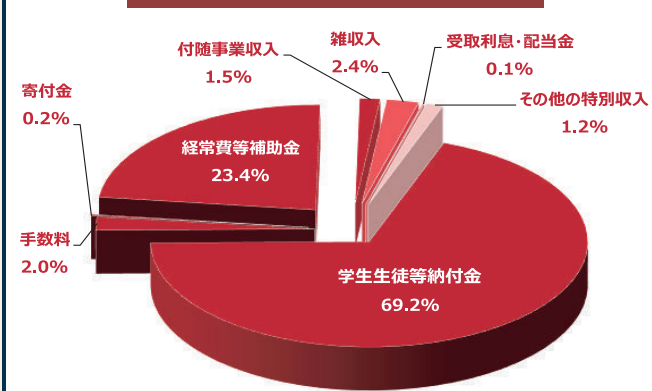
【徴収不能額】
得るべき収入が徴収不能になった際、徴収不能引当金を設けていない場合やその額が徴収不能引当金残高を超えている場合に計上します。なお、本来得るべき収入のうち、その回収不能額を見積もって引当金を設ける場合には、徴収不能引当金繰入額を計上します。

【基本金組入額】
学校法人が教育研究活動を行っていくためには、校地・校舎・機器備品・図書・現預金などの資産を保有し、これを永続的に維持する必要があります。学校会計では、当該年度にこれらの資産の取得に充てた金額を基本金へ組入れる仕組みとなっています。この基本金の対象は、「学校法人会計基準」において、次の4項目に分類されています。

- 【第1号基本金】：設立当初に取得した固定資産、並びに設立後新たな学校の設置、学部学科の増設、定員や実員の拡大による規模の拡大及び教育の充実向上のために取得した固定資産の額。
- 【第2号基本金】：第1号の資産を将来取得するために充てる金銭その他の資産の額。
- 【第3号基本金】：基金として継続的に保持し、かつ運用する金銭その他の資産の額。
- 【第4号基本金】：恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額。

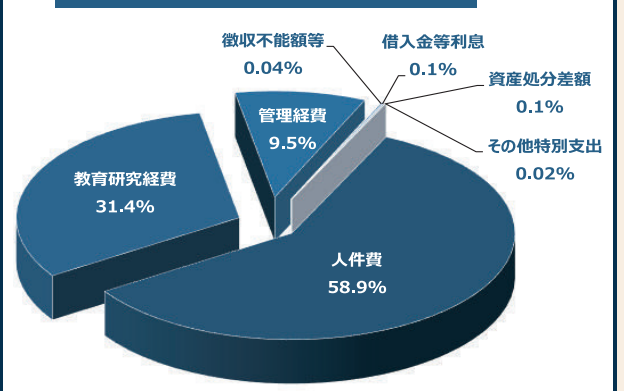
事業活動収入に対する各費目の占める割合

事業活動収入計 (3,732百万円)



事業活動支出に対する各費目の占める割合

事業活動支出計 (3,525百万円)



資金収支計算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで) (単位: 千円)

収入の部	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,587,778	2,584,270	3,508
手数料収入	73,471	74,008	△ 537
寄付金収入	6,435	10,777	△ 4,342
補助金収入	910,200	910,200	0
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	55,906	56,164	△ 258
受取利息・配当金収入	4,680	4,381	299
雑収入	80,302	80,348	△ 46
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	417,870	474,199	△ 56,329
その他の収入	147,751	675,126	△ 527,375
資金収入調整勘定	△ 475,792	△ 510,471	34,679
前年度繰越支払資金	2,581,590	2,581,590	0
収入の部合計	6,390,191	6,940,592	△ 550,401
支出の部	予算	決算	差異
人件費支出	2,076,524	2,070,403	6,121
教育研究経費支出	894,132	861,945	32,187
管理経費支出	317,841	302,016	15,825
借入金等利息支出	4,933	4,933	0
借入金等返済支出	585,540	585,540	0
施設関係支出	98,694	98,694	0
設備関係支出	184,508	182,658	1,850
資産運用支出	0	500,181	△ 500,181
その他の支出	38,509	52,360	△ 13,851
[予備費]	10,000		10,000
資金支出調整勘定	△ 23,381	△ 41,656	18,275
次年度繰越支払資金	2,202,891	2,323,518	△ 120,627
支出の部合計	6,390,191	6,940,592	△ 550,401

翌年度に入学する学生生徒等から受入れた授業料・入学金等。

長期・短期の貸付金の回収額。特定の目的のために積立たれた預金(退職・減価償却)等を取り崩した額など。

収入として計上したが、未収となっているものや、前受金収入として前年度までに既に受入れている収入を差引くことにより、資金の収入額を調整するもの。

土地、建物、構築物等を取得するための支出。

機器備品、図書、車両などを取得するための支出。

支出として計上したものの、未払いとなっているものや、前払金支払いとして前年度までに支払っている経費を差引くことにより、資金の支出額を調整すること。

【語句説明】 資金収支計算書にのみ表れる主な科目

【前受金収入】

翌年度の活動に対する収入をいいます(新入生の入学金・授業料等)。

【資金調整勘定(資金収入調整勘定、資金支出調整勘定)】

資金収入調整勘定とは、当年度の諸活動に対する収入で前年度以前に資金の収入になったもの及び当年度の諸活動に対する収入で翌年度以降に資金が受け入れられるものです。
資金支出調整勘定は、当年度の諸活動に対応する支出で前会計年度以前において支払資金の支出となったもの及び当年度の諸活動に対応する支出で翌会計年度以後において支払資金の支出となるべきものをいいます。

【語句説明】 資金収支計算書及び事業活動収支計算書に共通して表れる主な科目

【学生生徒等納付金】

在学又は入学の条件として、所定の額を義務的にかつ一律に納付すべきものです。授業料、教育充実費、入学金等の学生・生徒から納入されるもので、収入のうちで最も大きな割合を占めます。

【手数料】

入学試験、転入学試験等のために徴収する収入です。
具体的には、入学検定料、試験料、証明書発行手数料をいいます。

【経常費等補助金】

国・地方公共団体及びこれに準ずる機関から交付される補助金をいいます。

【受取利息・配当金】

預貯金や有価証券等の利息・配当金収入をいいます。

【付随事業収入】

食堂、売店、寄宿舎等の補助活動収入、外部から委託を受けて行う受託事業収入などをいいます。

【雑収入】

学校法人に帰属する上記の各収入以外の収入をいいます。これには、私学事業団等から退職金資金その他の交付金を受けたときの収入も含まれます。

【人件費】

専任教職員、非常勤講師などに支給する本俸・期末手当・その他の手当・所定福利費、理事及び監事に支払う報酬などをいいます。

【教育研究経費】

教育研究のために支出する経費をいいます。

【管理経費】

総務・人事・経理業務や学生募集のための支出などで、教育研究以外の経費をいいます。

活動区分資金収支計算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで) (単位: 千円)

科目	金額
教育活動による収入	3,673,275
教育活動資金収入計	3,673,275
教育活動による支出	2,070,403
教育研究経費支出	861,945
管理経費支出	302,016
教育活動資金支出計	2,334,364
差引	438,911
調整勘定等	115,317
教育活動資金収支差額	554,228
施設整備等活動による収入	金額
施設設備寄付金収入	4,579
施設設備補助金収入	37,912
減価償却引当特定資産取崩収入	299,820
施設整備等活動資金収入計	342,311
施設関係支出	98,694
設備関係支出	182,658
減価償却引当特定資産繰入支出	300,000
施設整備等活動資金支出計	581,352
差引	△ 239,041
調整勘定等	△ 12,341
施設整備等活動資金収支差額	△ 251,382
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	302,846
その他の収入	金額
退職給与引当特定資産取崩収入	204,897
貸付金回収収入	489
預り金受入収入	18,437
仮払金回収収入	1,206
修学・研修旅行費預り金受入収入	12,529
小計	237,558
受取利息・配当金収入	4,381
その他の活動資金収入計	241,939
借入金等返済支出	585,540
退職給与引当特定資産繰入支出	200,000
修学・研修旅行費預り資産繰入支出	12,558
小計	798,098
借入金等利息支出	4,933
その他の活動資金支出計	803,031
差引	△ 561,092
調整勘定等	174
その他の活動資金収支差額	△ 560,918
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 258,072
前年度繰越支払資金	2,581,590
翌年度繰越支払資金	2,323,518

学校法人会計について

学校法人はその教育研究活動を行うにあたって必要な施設や設備、経営に必要な財産を持つために、自ら調達した資金の他に国または地方公共団体から経常費の補助を受けています。

国または地方公共団体から経常費補助金の交付を受けている学校法人は私立学校振興助成法の定めにより、「学校法人会計基準」という会計ルールに則った会計処理および計算書類の作成をし、公認会計士または監査法人による監査を受けて、所轄庁に届け出ることが義務付けられています。

平成25年4月22日に文部科学省令第15号にて、新たな「学校法人会計基準」が公布され、平成27年4月1日に施行されました(平成27年度決算より適用)。当該年度の経常的な収支をあらわす計算書は、消費収支計算書から事業活動収支計算書に移行されました。この事業活動収支計算書は、「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」の3つの区分で構成され、各区分の収支を明らかにするものです。

計算書類について

(1) 資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応するすべての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにし、支払資金(現金及び預貯金)の残末を表すものです。

※活動区分資金収支計算書

資金収支計算書の決算額を「教育活動」、「施設整備等活動」、「その他の活動」の3つの活動区分で表示し、経営判断に資する財務情報を提供するものです。
活動区分資金収支計算書は、予算と決算との差異を表示する制度(様式)ではないため、予算書の作成は求められていません。

(2) 事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動収支の内容を明確にし、事業活動収支の均衡を表すものです。

計算書の構造は、本業である教育・研究活動(教育活動収支)と財務活動で生じる利息等(教育活動外収支)、資産売却等の臨時的収支(特別収支)に区分され、各区分の収支差額から経営状態の健全性を把握することができます。

(3) 貸借対照表

当該会計年度末における資産・負債・純資産(基本金及び収支差額)の状況を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部				負債の部			
科目	H30	H29	増減	科目	H30	H29	増減
固定資産	16,674,908	16,675,558	△ 650	固定負債	1,001,659	1,062,097	△ 60,438
●有形固定資産	14,033,930	14,029,621	4,309	●長期借入金	27,770	83,310	△ 55,540
●土地	5,270,389	5,270,389	0	●退職給与引当金	973,889	978,787	△ 4,898
●建物	5,962,899	6,086,114	△ 123,215	流動負債	791,981	1,276,293	△ 484,312
●構築物	458,301	466,483	△ 8,182	●短期借入金	55,540	585,540	△ 530,000
●教育研究用機器備品	462,863	331,470	131,393	●短期未払金	38,150	35,828	2,322
●管理用機器備品	38,634	41,955	△ 3,321	●前受金	474,199	461,799	12,400
●図書	1,832,525	1,822,602	9,923	●修学・研修旅行費預り金	74,779	62,250	12,529
●車両	8,319	10,608	△ 2,289	●預り金	149,313	130,876	18,437
●特定資産	2,388,321	2,393,039	△ 4,718	負債の部合計	1,793,640	2,338,390	△ 544,750
●退職給与引当特定資産	973,889	978,787	△ 4,898				
●減価償却引当特定資産	1,414,432	1,414,252	180	純資産の部			
●その他の固定資産	252,657	252,898	△ 241	科目	H30	H29	増減
●電話加入権	3,202	3,202	0	●基本金	23,911,368	23,184,801	726,567
●敷金	14,640	14,640	0	●第1号基本金	23,640,368	22,913,801	726,567
●有価証券	200,000	200,000	0	●第4号基本金	271,000	271,000	0
●長期貸付金	0	241	△ 241	●繰越収支差額	△ 6,576,464	△ 6,057,131	△ 519,333
●預託金	34,815	34,815	0	●翌年度繰越収支差額	△ 6,576,464	△ 6,057,131	△ 519,333
●流動資産	2,453,636	2,790,502	△ 336,866	純資産の部合計	17,334,904	17,127,670	207,234
●現金預金	2,323,518	2,581,590	△ 258,072	負債及び純資産の部合計	19,128,544	19,466,060	△ 337,516
●未収入金	48,578	138,679	△ 90,101				
●貯蔵品	118	157	△ 39				
●短期貸付金	431	904	△ 473				
●修学・研修旅行費預り資産	74,509	61,951	12,558				
●前払金	3,973	3,506	467				
●仮払金	2,509	3,715	△ 1,206				
資産の部合計	19,128,544	19,466,060	△ 337,516				

- 校舎・寮・体育館等の建物及び建物付属設備（空調等）の額。
- 教育研究のために使用される機械設備の額。
- 教育研究目的以外の機械設備の額。
- 退職金の支払いのため、将来の支出に備えて留保した資金の額。
- 老朽施設の更新や機器備品の買換え及び拡充を目的として留保した資金の額。
- 現金及びすぐに引き出せる預貯金の額。
- 決算日（3月31日）における未収入額。
- 切手、はがき、図書カード等の在庫。

- 返済期限が1年以上の借入金。
- 当該年度末に教職員全員が退職した場合に支払われる退職金の見積額。
- 返済期限が1年以内の借入金。
- 翌年度に入学する学生生徒等から受入れた授業料・入学金等。
- 財産的な基盤を確保する額のこと。本学が安定的かつ永続的に経営していくために必要な額。
- 資産から負債・基本金を差し引いた額。プラスは累積黒字、マイナスは累積赤字を示す。

【語句説明】：貸借対照表に表れる主な科目

【○○○引当特定資産】

施設の増設や改築、機器備品その他の設備の拡充や買い替え、退職金の支払いなど、将来の特定の支出に備えるために資金を留保した場合に設ける勘定科目です。このような資金留保は、経営方針に基づく長期的な資金計画によって実行されます。

【有価証券】

国債・地方債・社債・金融債・株式などがあり、会計年度末後1年を超えて保有する目的のものは「その他の固定資産」に計上します。一時的（短期的）な保有を目的とするものは、「流動資産」に計上します。

【現金預金】

現金、銀行の各種預金、郵便貯金などです。「現金預金」の額は、資金収支計算書の「次年度繰越収支差額」と一致します。

【借入金】

長期借入金は、返済期限が年度末後1年を超えて到来する借入金で「固定負債」に計上します。短期借入金は、返済期限が年度末後1年以内に到来する借入金で「流動負債」に計上します。

【預り金】

給料・報酬などにかかる源泉所得税、住民税など学校法人の事業活動収入にならない、他に支払うための一時的な金銭の受入額をいいます。

【繰越収支差額】

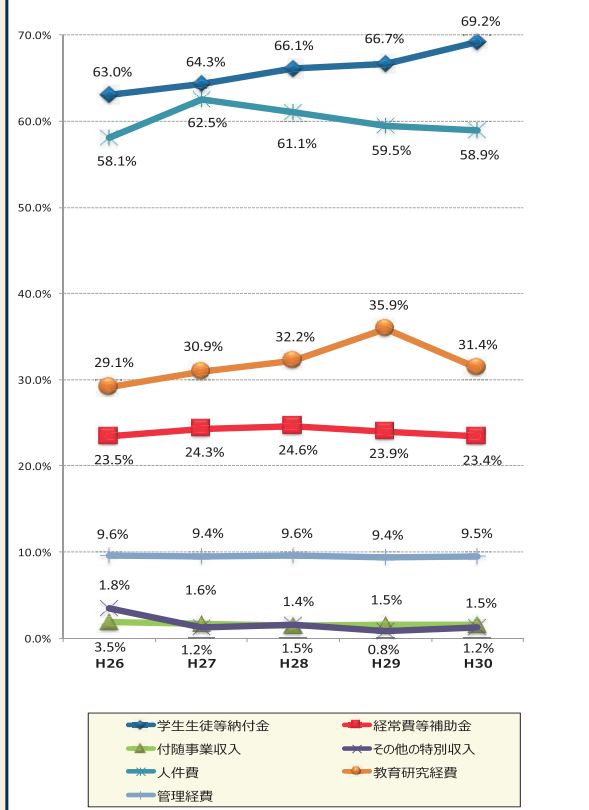
当期以前の各年度の事業活動収入から事業活動支出を差し引いた差額の累計額です。

事業活動収支計算書（経年比較）

科目	H26	H27	H28	H29	H30
収入					
●学生生徒等納付金	2,403,123	2,323,418	2,387,782	2,474,530	2,584,270
●手数料	72,384	72,861	77,151	72,943	74,008
●寄付金	0	0	10,000	7,500	6,198
●経常費等補助金	894,604	876,486	888,721	888,791	872,288
●付随事業収入	70,102	58,503	51,395	53,862	56,164
●雑収入	153,127	193,348	135,956	181,127	88,502
●教育活動収入計	3,593,340	3,524,616	3,551,005	3,678,753	3,681,430
●人件費	2,216,725	2,258,650	2,205,963	2,207,682	2,073,661
●教育研究経費	1,110,517	1,116,463	1,162,243	1,331,086	1,105,571
●管理経費	365,943	340,285	345,409	349,271	334,039
●徴収不能額等	0	0	0	650	1,431
●教育活動支出計	3,693,185	3,715,398	3,713,615	3,888,689	3,514,702
●教育活動収支差額	△ 99,845	△ 190,782	△ 162,610	△ 209,936	166,728
収入					
●受取利息・配当金	34,012	15,764	6,464	4,472	4,381
●その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
●教育活動外収入計	34,012	15,764	6,464	4,472	4,381
●借入金等利息	8,577	8,893	7,568	6,234	4,933
●徴収不能額等	294	294	0	0	0
●その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
●教育活動外支出計	8,871	9,187	7,568	6,234	4,933
●教育活動外収支差額	25,141	6,577	△ 1,104	△ 1,762	△ 552
●経常収支差額	△ 74,704	△ 184,205	△ 163,714	△ 211,698	166,176
●資産売却差額	52,590	31,410	0	0	0
●その他の特別収入	132,530	42,332	55,583	28,886	46,172
●特別収入計	185,120	73,742	55,583	28,886	46,172
●資産処分差額	5,645	5,474	7,308	9,150	4,480
●その他の特別支出	0	0	0	0	634
●特別支出計	5,645	5,474	7,308	9,150	5,114
●特別収支差額	179,475	68,268	48,275	19,736	41,058
●基本金組入前当年度収支差額	104,771	△ 115,937	△ 115,439	△ 191,962	207,234
●基本金組入額合計	△ 353,504	△ 559,025	△ 133,575	△ 200,665	△ 726,566
●当年度収支差額	△ 248,733	△ 674,962	△ 249,014	△ 392,627	△ 519,332
●前年度繰越収支差額	△ 5,251,818	△ 5,479,359	△ 5,542,607	△ 5,664,961	△ 6,057,132
●基本金取崩額	21,193	611,714	126,660	456	0
●翌年度繰越収支差額	△ 5,479,358	△ 5,542,607	△ 5,664,961	△ 6,057,132	△ 6,576,464
(参考)					
●事業活動収入計	3,812,472	3,614,122	3,613,052	3,712,111	3,731,983
●事業活動支出計	3,707,701	3,730,059	3,728,491	3,904,073	3,524,749

(注) 平成26年度の数値については、旧会計基準を新会計基準に読替えて表示しています。

事業活動収入に対する主な科目の比率（経年比較）



貸借対照表関係財務比率 (旧会計基準)

No.	比率	算式	H26	評価
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	85.3%	▼
2	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	14.7%	△
3	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	9.2%	▼
4	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	3.2%	▼
5	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	87.6%	△
6	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	△ 27.3%	△
7	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	97.4%	▼
8	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金} + \text{固定負債}}$	88.2%	▼
9	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	453.1%	△
10	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	12.4%	▼
11	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	14.2%	▼
12	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	759.5%	△



消費収支計算書関係財務比率 (旧会計基準)

No.	比率	算式	H26	評価
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	58.1%	▼
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	92.2%	▼
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	29.1%	△
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	9.6%	▼
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.2%	▼
6	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	97.3%	▼
7	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	107.2%	▼
8	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	63.0%	—
9	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	0.6%	△
10	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	26.4%	△
11	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	9.3%	△
12	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	9.8%	—

(注) ① 財務比率の評価は、各学校法人の内部事情等を個別に判断しなければ、一概にその良否をいえませんが、財務比率の高低の評価を以下のとおりとしています。

[△ : 高い値が良い ▼ : 低い値が良い — : どちらともいえない]
(私学事業団：今日の私学財政 参照)

② 貸借対照表関係比率に表示される項目の説明

- 総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額
- 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額
- 運用資産 = その他の固定資産 + 流動資産
- 外部資産 = 総負債 - (退職給付引当金 + 前受金)

(注) 学校法人会計基準改正に対応した新たな財務比率等について

学校法人会計基準改正に伴い、財務比率も新基準に対応したものに變更されております。
貸借対照表関係比率及び事業活動収支計算書関係比率の名称變更や算出方法の變更に加え、新たに活動区分資金収支計算書関係比率が設けられました。

企業会計と学校法人会計の違い

企業会計では、会計によって収益と費用を正しくとらえて営業年度の正しい損益を計算し、併せて企業の財政状態、すなわち資産・負債及び資本の状態を知ることによって、より収益力を高め財政的安全性を図ることを目的としています。

一方、学校法人は、教育研究活動により社会に有為な人材を育成することを目的とし、その収入の多くは学生生徒等の納付金や国・地方公共団体からの補助金で構成されている極めて公共性の高い公益法人であり、企業のように収益の獲得を目的とすることはできません。したがって、学校法人の会計には、損益の計算という目的はなく、また、一般の企業に比べてより一層の永続性が望まれます。以上のことから、学校法人会計の目的は、収支の均衡の状況と財政の状態を正しくとらえ、法人の永続的發展に役立てようとすることにあり、その目的を達成するため、計算書類等を作成することになっています。

貸借対照表関係財務比率 (新会計基準)

No.	比率	算式	H27	H28	H29	H30	評価
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	85.8%	85.2%	85.7%	87.2%	▼
2	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	72.6%	71.8%	72.1%	73.4%	▼
3	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	11.9%	12.1%	12.3%	12.5%	△
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	14.2%	14.8%	14.3%	12.8%	△
5	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	8.7%	8.3%	5.5%	3.6%	▼
6	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	3.6%	4.0%	6.6%	2.9%	▼
7	内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	72.8%	77.7%	72.8%	88.6%	△
8	運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	113.6%	121.4%	114.8%	136.1%	△
9	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	87.7%	87.7%	88.8%	93.5%	△
10	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△ 27.9%	△ 28.7%	△ 31.1%	△ 23.7%	△
11	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	97.9%	97.1%	97.4%	64.4%	▼
12	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	89.0%	88.7%	91.7%	90.9%	▼
13	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	392.2%	373.4%	218.6%	309.8%	△
14	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	12.3%	12.3%	12.0%	9.4%	▼
15	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	14.0%	14.0%	13.7%	6.9%	▼
16	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	642.4%	598.9%	559.0%	490.0%	△
17	退職給付引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給付引当特定資産}}{\text{退職給付引当金}}$	100.0%	99.7%	100.0%	100.0%	△
18	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	96.8%	97.2%	97.7%	99.7%	△
19	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額 (図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価額 (図書を除く)}}$	54.8%	56.4%	57.6%	58.3%	—
20	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	52.3%	52.3%	49.7%	46.1%	△

事業活動収支計算書関係比率 (新会計基準)

No.	比率	算式	H27	H28	H29	H30	評価
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	63.8%	62.0%	59.9%	56.3%	▼
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	97.2%	92.4%	89.2%	80.2%	▼
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	31.5%	32.7%	36.1%	30.0%	△
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.6%	9.7%	9.5%	9.1%	▼
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.3%	0.2%	0.2%	0.1%	▼
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△ 3.2%	△ 3.2%	△ 5.2%	5.6%	△
7	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動収入} - \text{基本金組入額}}{\text{学生生徒等納付金}}$	122.1%	107.2%	111.2%	117.3%	▼
8	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	65.6%	67.1%	67.2%	70.1%	—
9	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.4%	1.8%	0.6%	0.4%	△
9	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.3%	0.2%	0.2%	△
10	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	25.1%	24.6%	24.3%	24.4%	△
10	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	24.8%	25.0%	24.1%	23.7%	△
11	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	15.5%	3.7%	5.4%	19.5%	△
12	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	8.6%	7.8%	7.2%	7.8%	—
13	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△ 5.2%	△ 4.6%	△ 5.7%	4.5%	△
14	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△ 5.4%	△ 4.6%	△ 5.7%	4.5%	△

(注) 「経常収入」 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計
「経常支出」 = 教育活動支出計 + 教育活動外支出計

活動区分資金収支計算書関係比率 (新会計基準)

No.	比率	算式	H27	H28	H29	H30	評価
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	3.3%	6.2%	1.4%	15.1%	△

(注) 教育活動資金収支差額 = 教育活動資金収入計 - 教育活動資金支出計 + 教育活動調整勘定等



学校法人 九州国際大学

- 大学 法学部 / 法律学科 現代ビジネス学部 / 地域経済学科・国際社会学科 経済学部 / 経済学科・経営学科 国際関係学部 / 国際関係学科
- 大学院 法学研究科 / 企業政策研究科
- 付属高等学校 難関クラス / S特進クラス / 特進クラス / 進学クラス / トップアスリートクラス
- 付属中学校

University



高校3年生対象

オープンキャンパス <事前申込必要>

令和元年10月5日(土) 14:30~16:00

ズバリ解説! 入試直前「推薦・AOのポイント」

・推薦入試&AO入試のポイントを解説します!

お申込みは / TEL. 093-671-8916
 FAX. 093-671-8995
 Email. admission@kiu.ac.jp



盛り上がっていきこう!

大学祭「橋祭」

今年のテーマは「一心」

令和元年11月23日(祝・土)・24日(日)



High School



入試ワンポイントアドバイスも実施!

オープンスクール

令和元年10月19日(土) [文系篇(国・社・英)]

令和元年11月9日(土) [理系篇(数・理・英)]

10:00~12:30

(12:30以降のプログラムは自由参加)

学校説明&保護者ガイダンス / ステージイベント
 クラブ見学 / ランチ体験 / 入試過去問題配布 など
 無料送迎バス / JR枝光駅発 8:30 から 20分毎に運行

放課後のオープンスクール

令和元年11月15日(金) 18:30~20:00

学校見学&クラブ活動見学 など

お申込みは / TEL. 093-671-8443
 FAX. 093-671-9028
 Email. 959h@kif.ed.jp



Junior High School



小学6年生および保護者対象

九国プレ2019 学校・入試説明会

令和元年10月20日(日) 9:30~12:00

無料送迎バス / JR枝光駅発 8:30, 8:50, 9:10

授業を見てみよう!

秋の学校見学ツアー

令和元年11月16日(土) 10:00~12:00

お申込みは / TEL. 093-671-9001
 FAX. 093-671-8998
 Email. 959j@kif.ed.jp



学園広報誌 九国の扉 ~キエトビ~
 vol.17 / 2019

発行日 / 2019年9月30日
 発行 学校法人九州国際大学
 ■ 学園広報誌作成委員会
 〒805-8513 北九州市八幡東区平野2-5-1
 TEL. 093-671-8900 FAX. 093-671-9032